

第2回ウィズあかし運営委員会 実施報告

日 時：令和2年12月13日（水）18：00～20：30

場 所：ウィズあかし8階 活動スペースA・B

参加者：運営委員 10 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 13 名

1. あいさつ（事務局）

2. 前回の運営委員会の振り返り（事務局）

事務局より前回の運営委員会の振り返りを行った。（別添資料参照）

3. 自己紹介（各テーブル）

各テーブルごとに各委員とスタッフが「私とウィズあかしの関わり」に関する話を交えながら自己紹介を行った。（別紙委員名簿参照）

4. 意見交換（ワールドカフェ）

テーマ：「これからのウィズあかしに期待すること」

スタッフがホストになり、4テーブルに分かれて各回10分ずつワールドカフェ方式でテーマに関する意見交換を行った後、元のグループに戻ってグループごとに報告し、全体共有を行った。

■各グループの報告

- ・西部文化会館にフリースペースが設けられる予定なので、ウィズあかしのフリースペースの雰囲気や運営方法、スタッフのコーディネート力を取り入れるなど、市内に展開してほしい。
- ・3つのセンター名が硬いイメージなので、分かりやすい言葉で「こんな人がきたらこんなことができる」など市民参画の方法を具体的に伝えていけばよいのでは。
- ・「相談業務」が大事。ウィズあかしの相談業務は多岐に渡っているが、相談がたくさんあることを発信し、「今日はどうされましたか？」と窓口でちょっとした相談を聞ける体制で取り組まないといけない。来館者が何かを持って帰ってもらえたり、背中を押されたりするような場所でありたいし、スタッフも来館者の方から大きなものをもらっている。
- ・利用者の方の名前を覚えてくださいという要望があった。
- ・登録団体のジャンル別の交流会が一步進むためのアドバイスを得る機会になるのでは。
- ・団体同士がつながることも大事だが、団体と個人をつなぐ機会提供を行う必要があるのでは。
- ・もっと個人に知ってもらうための広報に力を入れる必要がある。

- ・まずは気軽に参加してもらうことが大事。市民広場イベント等の機会を活用して市民広場やコミセンとウィズあかしがもっとつながっていければよい。
- ・フリースペースのような交流できるオープンな場があることが大事。それを活かして新規の団体を開拓していければよいのではないか。
- ・相談から新たなつながりが生まれることもあるので、スタッフにはコンシェルジュの役割が必要。
- ・団体同士のネットワークの力が広がってきているが、最終的にネットワークの行きつく先は、このセンターがなくなっても明石市全域で団体や市民同士がつながることができるようになること（＝自治力）で、そこを目指さなければならないのでは。
- ・グループ同士がコラボするためには、まち協とつながるのがよいのではないか。コミ創が市民団体のメニューを作ってまち協に渡しておくことで、まち協がコーディネートできるようになるのでは。
- ・登録団体だけでなく個人でも使えることを分かりやすくPRすれば個人が利用しやすくなるのでは。
- ・窓口で市民団体の紹介コーディネートについて「こんな紹介ができますよ何でも言ってね」ということをもう少し大きな声で言うておけば、相談する側も気軽に相談しやすく、市民団体もメンバーが増えてよい方向になるのでは。
- ・コラボして活動した時に活動記録・PRとして映像を残しておけばよいのでは。

5. まとめ

（委員）

11年間指定管理事業を行ってきた中で思ってきたことを伝えたい。「相談」機能の重要性を共有することができた。相談は堅苦しくするものではなく、「今日はどうされましたか？」から始めればよいと思っている。ちょっとした声かけで「私のことをケアしてくれている」と思ってもらえる。スタッフにも声かけをしており、スタッフ自身にもそれぞれの持ち味を活かした対応を蓄積して行ってほしいと思っている。「ホテルのコンシェルジュ」までやりすぎない方がよいかも知れない。グループ同士の横連携の先を考えた時にセンターがなくてもやっていける自治力ではないかという話になった。川西市市民活動センター・男女共同参画センターでは、「利用者自治」という自分達でルールを決めることをやっている。将来的には皆でできるように必要以上に手をかけるのではなく皆と一緒に考えていくのがよいのではないかと思う。

明石は横に広いため西の拠点の話が出ていたが、余力があればアウトリーチしてもよいのでは。元々の仕様書になれば負担が大きいが、センターの対応を広く伝播していくというのはいいと思う。そういうことも含めて明石だけの哲学を持ってやっていくと一貫性が出るのではないか。

(委員)

感想を3点述べたい。

1点目は、生きたコミュニケーションが大事だと感じた。生きたコミュニケーションがどれだけあるか、コミュニケーションの鮮度が大事である。そのためにはコミュニケーションのデザインをすること、まちの中のコミュニケーションポイントをどうやってデザインできるかが大事だと思っている。マスコミュニケーションも大事だが、小さなコミュニケーションポイントをたくさん作っておけるかどうかセンターにとって大事であり、相談窓口、団体と個人、事業同士のコミュニケーションのポイントをどうやってたくさん作っておくかが大事である。

2点目は、ビジビリティ（目に見えて感じられるかどうか）である。ウィズあかしはエレベーターで上がってこないと見えないので市民広場でイベントを行ったりしているのだと思う。シーンづくりとムードづくりが大切。今日のように机のレイアウトや模造紙でなく色のついた紙を使うことでシーン（目に見えた風景）が変わってくるのが重要。そのことで人に伝えやすくなる。同時にそこでのムードを体感して分かってもらうことが大事。シーン作りとムード作りで目に見えること、感じられることをどうやって伝えていけるのか、ビジビリティを高めることが大事だと思う。

最後は、期待から信頼へということだと思う。期待を寄せてもらうことは大事だが、期待は裏切られるので、裏切られない信頼関係に変わっていくのがいいのかなと思う。ふらっと来てみようかなという時は期待感はあるが裏切られそうで怖いという感じもあるのではないかな。もう少し信頼できる背後から温かく包み込んでくれるような存在になれているかどうか期待と信頼の差ではないかな。信頼社会というのはかなり難しい目標だが、それを支えるセンターであってほしい。今年は民主主義が問い直された年だったのではないかな。自治の在り方やデモクラシーの意味が世界中で問われたと思うが、1人1人がどのようにまちに参画して協働で暮らしていくことで暮らしがよりよくなっていくかを考え直すいい機会だったと思う。そのことを支える信頼あるセンターにどうやったらなれるのかが目標としては大事なのではないかと思う。

(事務局)

2期目は、1期目よりも幅広い議論が生まれている。4年目の今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で動きがとりづらく、スタッフも次の山はどこなのかと手探りの状況が続いていたが、その方向性が感じられる時間になったのではないかな。事業のオンライン化にも取り組んできたが、リアルに場を持てることがウィズあかしの強みではないかと再認識することができた。これからどのように信頼関係を作ることができるか、次回開催は春以降になると思うが、またウィズあかしに足を運んでいただいて、その際にはぜひスタッフに声をかけていただければと思います。

以上